

資料館だより

発 行

高松宮記念ハンセン病資料館
〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13
電話 0423-96-2909
FAX 0423-96-2981
郵便振込 東京00130-7-764159
高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

「らい予防法」

廃止のあとに

「らい予防法」が廃止されて一年半がたち、ハンセン病資料館も来年は開館五周年を迎える。入館者数は当初から平均していて、それなりの関心を集めているものと思われるが、いくつかの著書を読むか説明を聞く限り、「らい予防法」と二階展示室に並べられた資料との関わりはよくわからぬかもしれない。

「らい予防法」の法文の中に、強制隔離とか終生隔離とかいった言葉はないが、第六条二項に「入所させる」ことを命ずることができるとあって、退所の規定のないのはそれらを意味している。第四条、第七条、第八条、第九条及び第一十五条などは、へらいは恐ろしい伝染病」というイメージをかきたてる偏見に満ちており、第一六条は「癩予防

法」の患者懲戒検束規定を緩めてはいてもやはり差別の象徴と言える。また、優生保護法第三条一項三号によつて断種手術を強制したのは、人間性をまったく軽視した暴挙であり、入所者を療養所につなぎ止める目的だけが極立つ。

もつとも化学療法の進歩に伴い、「らい予防法」はその実効性を徐々に失つたが、遵守されていた頃は悲惨そのものだった。病人相手には予想もつかない労働の強制、女子寮の雑居部屋に入り込む『通い婚』の惨めさ、みせしめの監獄の余りもの物々しさ、忘れた故郷の思い出を追う宮造り、(戦時下に)米軍の進攻を恐れた職員が患者を放置して逃走するなど、数多くの資料がところ狭しと並ぶ。

が法律の名のもとに行われたことを再認識してほしい。展示資料の一つひとつには、それぞれ簡単な説明が付けられているが、これらを正当化してはばからなかつた人間の一面を、「らい予防法」の廃止に合わせて、深い反省とともに見つめ直すよう強く望みたい。

資料館運営委員長 成田稔



WHO国連本部で マルチメディア展

「尊厳の確立」—ハンセ

ン病のない世界—をテーマに、十月三十日(木)より十一月十九日(水)まで、ニューヨークの国連本部一階展示室でマルチメディア

展示が開催されることになった。

主催はWHO(世界保健機関)、共催は日本財団とアイデア(ハンセン病回復者の国際ネットワーク)。

日本からも笹川記念保健協力財団の山口和子さんが中心になって出品することになった。

資料館では依頼を受け格子縞の着物と、園内通用券などを貸し出すことになつたが、その他二階展示室の予防法闘争(抗議、ハンスト、座り込み)や、盲人会バンド、強制収容などの写真十数枚を複写し、出品されることになつた。

立川で開催された全国ハンセン病療養所連絡協議会平成九年度総会に出席された一三五名が、翌十七日多磨全生園を訪問された。細瀬一男会長(東村山市長)を始め、参加者全員は先ず納骨堂に参拝、予防法の廃止を知ることもなく亡くなつた三千八百六名の諸靈に献花をされた。

その後、公会堂において施設

全国ハンセン病療養所所在市町村連絡協議会 立川で総会



七月十六日、立川で開催された全国ハンセン病療養所連絡協議会平成九年度総会に出席された一三五名が、翌十七日多磨全生園を訪問された。細瀬一男会長(東村山市長)を始め、参加者全員は先ず納骨堂に参拝、予防法の廃止を知ることもなく亡くなつた三千八百六名の諸靈に献花をされた。

幹部、自治会関係者、全療養所の来訪者が多くなったことと、自治体や学校などでのシンポジウム、講演に園長、自治会長、一般入園者が招請されるようになり、地域住民との交流の輪が広まってきたことなどが報告された。

幹部、自治会関係者、全療協役員と懇談を行なつたが、その中ではらい予防法廃止後、徐々に変つてきたハンセン病への関心度や療養所の来訪者が多くなつたことと、自治体や学校などでのシンポジウム、講演に園長、自治会長、一般入園者が招請されるようになり、地域住民との交流の輪が広まってきたことなどが報告された。

なお総会の前に全療協本部より要請があり、総会では次のような決議が行われた。

決議

私ども国立ハンセン病療養所所在地の地方自治体はハンセン病に関する諸問題を協議し、その問題解決の推進を目的としています。私達、協議会に加盟する十二の各自治体は、それぞれのまちの特性を活かして入所者への差別と偏見をなくすための啓発事業や、福祉の充実に努めてきました。平成八年四月一日、それまで八十九年間にわたつて社会から隔離された生活に終止符がうたされました。しかし、この「らい予防法」の廃止は、入所者への人権尊厳の回復に向けた社会の差別や偏見が解消した訳ではなく、一つのステップをクリアーしたにすぎません。

平均年齢は七十一歳の超高齢者集団となつた現在、問題の解決は先送り出来ない状況にあります。また、入所者の八割の方が障害程度二級以上という重度の障害を持っており、医療体制のさらなる充実ならびに看護・介護等、高齢者・障害者対策の拡充が不可欠であります。

一方、新法制定時に採択された付帯決議である社会復帰のための支援策も重要な課題であります。厚生省は昨年十二月、その支援策を具体化するため「社会復帰支援方策調査検討委員会」を設置し、社会復帰希望者のアンケート調査を実施したが、約二%の百四名の方が退所したいとの希望があつたということであります。全入所者の平均年齢や八十九年間の隔離生活などを考えますと、決して少ない数値ではありません。是非、これら社会復帰希望者の支援策が、一日も早く確立されることを強く望むものであります。

従いまして、国及び政府におかれましては、以上の決議の趣旨をご理解下さい。入所者並びに社会復帰者が安心して生活が営まれるよう医療、福祉の待遇改善及び社会における差別と偏見の解消が図られるよう以下の要請について、特設の処置を求めるものであります。

記

一 医師並びに職員体制の充実

二 医療機関・医薬品等の整備

三 盲人・高齢者・障害者対策の促進

四 ハンセン病を正しく理解するための啓発事業の推進

五 社会復帰希望者への支援策の早期確立

六 学校教育における児童啓発

一九九七年七月十六日
全国ハンセン病療養所所在市町村連絡協議会

来年日本で 国際交流会議

IDEA
準備会

関係者と懇談、午後五時からは公会堂で笛川財団、藤楓協会、全療協、施設幹部、自治会関係者と懇親会を開いた。

来年日本で開催される

「IDEA国際交流会議」

の準備打合せ会が、八月四日都内飯野ホールで開催された。

この準備会には、IDEAのコペール会長(インド)、コーディネーター兼財政担当アンウェイ(アメリカ)、ハワイカラウパパ家族の会会長のバーナード・ブニカイの三氏と、全療協、資料館、笛川記念保健協力財団、藤楓協会、厚生省の各関係者が出席した。

第二十回ハンセン病医学夏期大学が、八月二十五日より二十九日まで全生園研修棟と国立感染症研究所ハンセン病研究センターを会場に開催された。

参加者は横浜市立大学、信州大学、九州大学、杏林大学、国際医療福祉大学、磨全生園の職員、看護婦、歯科医院、菊池恵楓園、多見学や話、二十九日は入所者との交流で理解を深めた。

第二十回夏期大学 全国より24人参加

大阪大学や、都立医療技術短期大、和歌山病院、武田

看護学生など二十四人である。参加者は二十六人の講師から、各分野にわたるハンセン病の専門的な講議を熱心に受けていた。

なお、二十七日は資料館見学や話、二十九日は入所者との交流で理解を深めた。

翌五日は全生園で自治会、全療協本部を訪ね、納骨堂参拝、資料館見学を行ない

会議終了後IDEAの一
行は、厚生省へ表敬訪問、
翌五日は全生園で自治会、
全療協本部を訪ね、納骨堂
参拝、資料館見学を行ない

看護学生など二十四人である。参加者は二十六人の講師から、各分野にわたるハンセン病の専門的な講議を熱心に受けていた。

入館者は八王子市の中村修さんで、当日は多摩博物館問題研究会の仲間十数名と一緒に来館したもの

資料館入館者は大体一年間(開館日数二百日)に一万前後のペースだが、今年は六月六日に四万人目を迎えた。幸運の四万人目の

入館者の一万人目は九四年五月十九日であったが、二万人目は九五年七月二十八日、三万人目は九六年八月八日と、やや入館者が減少の傾向にあつたが、予防法廃止の影響もあってか今年は入館者がふえ、早々と四万人目を突破したものである。

資料館4万人目は 八王子の中村さん



来館者の声

明治・大正・昭和の歴史

・博物館学芸員 39才 男性
難しい問題(差別や偏見)を扱っている日本でも数少ない博物館だと思います。

日本人のもつてある性格(くさいものにはふたをして、どのようにして応じらよい)と思いません。

・教員 37才 男性

入り、らいと梅毒の血清反応の研究に取組み、後年「村田氏反応試薬」を生みだした。

明治十七(一八八四)年
十月五日、高知県に生まれた。高知一中を卒業後、東京法学院に入学するが外国語学校ドイツ語科に転校。その頃ハンセン病に関心を持ち東京養育院の光田を訪ねた。

光田の意見を聞いてらいの医師を目指すため東大医学部へ進む。大正六年、東京伝染病研究所血清学部に

失礼ながらこれほど多くの物が展示してあるとは思

わなかつた。高校教員の私は明治、大正、昭和の歴史も知ることができ勉強になつた。できれば江戸時代以前の説明もほしい。

・学生 22才 女性

ハンセン病のことは今まで全く知識がなく、ここに来て初めてハンセン病がどんな病気なのか、知ることができます。

昔はハンセン病は恐ろしい病気だという偏見のために、差別を受けた人々が多くいたことと思います。

しかし、様々な事件や生じたことと思われる。

田氏反応試薬」を生みだした。

外周堤防の隅に監視所を設け、守衛によつて昼夜見張つていた。昭和二(一九二七)年には、逃走防止の鉄条網を張る工事を直前に中止させた。

昭和八年十月七日、外島事件の責任をとつて辞任した。昭和五十三年、生まれ故郷高知県香美郡野市町に顕彰碑が建立された。

人が人を助けることの難しさ、人と人がともに生活していく難しさを感じた。とても感動した。

・学生 20才 女性

ハンセン病のことは今まで全く知識がなく、ここに来て初めてハンセン病がどんな病気なのか、知ることができます。

昔はハンセン病は恐ろしい病気だという偏見のために、差別を受けた人々が多くいたことと思われる。

田氏反応試薬」を生みだした。

外周堤防の隅に監視所を設け、守衛によつて昼夜見張つっていた。昭和二(一九二七)年には、逃走防止の鉄条網を張る工事を直前に中止させた。

昭和八年十月七日、外島事件の責任をとつて辞任した。昭和五十三年、生まれ故郷高知県香美郡野市町に顕彰碑が建立された。

雑居部屋に枕屏風に

あろう!

資料館英語リーフ

二階展示場の雑居部屋の寝ているマネキン人形の枕元に、この程Gさんから寄贈された枕屏風がおかれた。

この枕屏風は園内のMさんが実際に使用していたものを引越しの際、Gさんが

贈った三千部作成した。

なお、翻訳、編集については都内と鎌倉在住のボランティア、勝山京子さん外

に二名の方のお骨折りを頂き感謝している。

谷田部豊堂さんの漢詩の書

が六枚貼られている。

雜居部屋のわざらわしさ

を避け、マネキン人形も少しほんの安心して眠ることで

は、入園者の人格を認めて対等の人間として相

対した。中央炊事制の改革で食事を改善させ、それと相前後して監視

四六判二〇七頁 税込価格一六八〇円 かもがわ出版

一〇〇年のたたかい

平沢保治著

◎あとがき

世の中で一番嫌われた病気。国の施策(法律)で偏見差別を助長させてきた。

患者やその家族の犠牲ばかり知れない。今は「ハンセン病」を知らない世代が

化させてはいけない。(修)